

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：35410

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531269

研究課題名(和文) 児童生徒の発達段階に対応した平和教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) The effect of peace educational program in Hiroshima in accordance with age

研究代表者

石井 眞治 (Ishii, Shinji)

比治山大学・現代文化学部・教授

研究者番号：60112158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：2011年：(1)小学校から高等学校まで広島市の公立学校で導入される平和教育プログラムの枠組みを構築した。(2)平和教育プログラムの効果を測定するために平和教育に関する知識、平和に対するイメージ、平和概念、平和社会構築への意欲に・関心を測定する質問紙を作成した。

2012年：平和教育プログラムの枠組みに応じて作成された教材や指導案に応じて実行されたプログラムの効果を平和教育に関する質問紙を小学生、中学生、高校生を対象に実施した。

2013年：平和教育プログラムを担当した小学校・中学校・高等学校教師に質問紙と面接で本プログラム評価を行った。

研究成果の概要(英文)：1.2011: The new school program on peace education which have been intraduced to a llpublic schools in 2013.The questionnaires to measure knowledge on peace,image for peace , concept of im age ,interestings and willingness for building peace society,were eveloped.

2.2012: The childrens and students were asked to answerthe survey questionnaires prior and after the implem entation of the new program.

3.2013: This program were evaluated by teachers through the survey questionnaires and interview.

研究分野：人文社会

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：平和 平和教育 児童生徒 教育効果測定

### 1. 研究開始当初の背景

広島市では伝統的に平和教育が盛んに行われてきた。広島市の平和教育は基本的には被爆者の体験を基に原爆の被害や実相を学ぶことにより子ども達の平和意識を喚起させようとするものであった。

しかし、時代の経過とともに被爆者の数が減少し、直接的な被爆体験の継承が困難になってきた。さらに、世界のグローバル化に伴い、平和社会とは180度反対の極の存在であるテロ等の新しいタイプの紛争が出現し、平和な社会とは戦争、紛争、争いの無い社会、原子爆弾の無い社会であるとする単純な平和概念から、貧困、病魔、等を含め、人類を含む地球の有機体の幸せな生活を脅かすことが無い状態として平和を概念化しようとする動きが生じてきた。それにともない、広島市の平和教育のあり方が永年、反核を中心とした平和教育のあり方を再考する必要に迫られるようになってきた。こうした、広島市の平和教育の再構築に拍車をかけたのは2010年に広島市教育委員会が学校教育の目的を「持続可能な社会づくりの担い手」を育成し、「命を大切に、平和で持続可能な社会を創造していく力をもつ子どもを育てていく」としたところにある。即ち、広島市は世界で最初に平和教育により持続可能な社会を構築しようとした動きである。

また、世界の各地で平和教育プログラムが実践されてきたが、その評価に関する研究が行われておらず、そのため、平和教育の理論化がなされてこなかった。こうしたことから、新たな平和教育プログラムを開発し、その教育的効果を評価しようとする本研究は大変重要であると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、従来、広島市の公立小学校、中学校、高等学校で実施されてきた種々の平和教育事業を評価し、新たに道徳理論に基づき、小学校から高等学校まで連続性をもったプロトタイプの平和教育プログラムを構築するところにある。この目的を達成するために、次の4研究を行った。

- (1) 平和教育の教育効果を測定するための質問紙の作成
- (2) 従来の広島市の平和教育プログラムの評価
- (3) 新たな平和教育プログラムの評価(児童・生徒の行動変容測定)
- (4) 新平和教育プログラムの評価(教師の教えやすさの測定)

### 3. 研究の方法

- (1) 平和教育の教育効果を測定するための質問紙の作成  
調査参加者：小学生 1286名、中学生 1049名、高校生 587名、大学生 78名を対象に予備調査を実施。

- (2) 広島市の従来の平和教育プログラムの

### 評価効果測定

調査参加者：小学生(第4 - 6学年)33496人、中学生(第1学年 - 3学年)29060人、高校生(第1学年 - 3学年)5549名。

質問項目：

- 1) 学習経験：素材・情報源・教わった人
- 2) 原子爆弾の投下等に関する知識・理解：広島への原子爆弾投下日時、広島市の被爆死者数、長崎への原子爆弾投下の事実、長崎への原子爆弾投下の年月日、非核三原則。
- 3) 平和に関する関心・意欲：平和な社会を作るための15項目(大切)、平和な社会を作るための15項目(してみたい)。  
方法：対象校に直接調査票を配布。  
調査は学級担任。

- (3) 平和教育プログラムの評価(児童・生徒の行動変容測定) 調査参加者：小学生(第4 - 6学年)548人、中学生(第1学年 - 3学年)420人、高校生(第1学年 - 3学年)180名。

質問項目：

- 1) 学習経験：素材・情報源・教わった人
- 2) 原子爆弾の投下等に関する知識・理解：広島への原子爆弾投下日時、広島市の被爆死者数、長崎への原子爆弾投下の事実、長崎への原子爆弾投下の年月日、非核三原則。
- 3) 平和に関する関心・意欲：平和な社会を作るための15項目(大切)平和な社会を作るための15項目(してみたい)

- (4) 新平和教育プログラムの評価(教師) 調査参加者：小学校教師 51名、中学校教師 67名、高等学校教師 33名。

質問項目：

- 1) 児童生徒が積極的に学習したか。
  - i) 児童生徒の学習への積極性、
  - ii) 積極的に学習できた理由、
  - iii) 積極的に学習できなかった理由。
- 2) 児童生徒が平和への知識・能力等を獲得する学習になったかどうか。
  - i) 平和への知識・能力等を獲得する学習の成否、
  - ii) 学習がうまくいった理由、
  - iii) 学習がうまくいかなかった理由
  - iiii) 各教材の具体的な改善点。

### 4. 研究成果

- (1) 平和教育の効果測定を行うための質問紙の作成

質問紙の構成：

- i) 主題；アンケート調査、
- ii) フェースシート；事前・事後、調査日、学校名、学年・学級、性、誕生日。
- iii) 質問項目 1)
- 1) 学習経験：素材・情報源(問4)教わった人(問4)
- 2) 原子爆弾の投下等に関する知識・理解：

広島への原子爆弾投下日時(問1)、広島  
の被爆死者数(問1)、長崎への原子爆弾  
投下の事実(問2)、長崎への原子爆  
弾投下の年日時(問2)、非核三原則(問  
3)。

3) 平和に関する関心・意欲：平和な社会を  
作るための15項目(大切)(問5)、平和  
な社会を作るための15項目(してみたい)  
(問5)。

#### (2) 従来の平和教育プログラムの評価

平和教育の素材・情報源については小学  
校・中学校高等学校を通して「テレビ視聴」  
「平和記念資料館」が最も多く、次いで「教  
科書」「教師の自作資料」であった。平成1  
7年に調査した結果と同じであった。中学生  
では「教科書より」「教師の自作資料」の割  
合が高い。

教わったひとについては小・中・高を通  
して「学校の先生」「父母」となっていた。  
特徴的なのは年齢が低くなるにつれて「祖父  
母」「父母」など身近な人から教わる割合が  
高くなっている。

広島市の被爆年日時の完全正答率につい  
ては小学生が33%、中学生55%、高校生8  
2%であった。特に被爆年に対する認知が  
低い。広島市教育センターが平成17年に  
実施した調査での完全正答率は本年の結果  
より低い。

長崎市の被爆年日時の正答率は小学生が  
87.7%、中学生が96%、高校生が  
98%であった。長崎市の被爆日時に対  
する認知小学生49%、中学生12%、  
高校生16%と極めて低い。

非核三原則の正答率は小学生16%、中  
学生12%、高校生96%と年齢が高くなる  
につれて高くなる。非核三原則については  
社会科を中心に指導がなされていると思わ  
れる。知識を教わる相手は教師、情報源は  
テレビや資料館訪問。

平和な社会をつくるための15項目  
については「大切だと思う」(4.4)  
よりは「してみたい」(4.0)の得点が低  
い。特に中学生の得点が最も低い。平和な  
社会をつくることは「大切だ」と思うこと  
はあっても自ら何らかの行動をするほどに  
は意欲が高くない。

児童生徒が原子爆弾についてどのよう  
なイメージを抱いているか検討した。  
生徒は原子爆弾を単一のイメージでとらえ  
ているのではなく「非人間性」「嫌悪」「敵  
対心」「冷酷」などの多側面からとらえてい  
た。

平和教育は受け身的な知識が中心で主体  
的に考える教育経験は乏しいと認知。これ  
らから従来広島市で行われてきた平和教育  
プログラムは知識偏重であったことが判明。

#### (3) 新平和教育プログラムの評価(児童・ 生徒の行動変容測定)

広島市の原爆投下日時への認知では、少  
額4-6年生、中学生及び高校生においては本  
プログラムによる知識の生地かが見られた。  
小学生、中学生、高校生の順で広島以外で  
も原資爆弾が投下されたとの認知は増加。

広島市における被爆者数に関しては正答  
率は小学生、中学生、高校生とも本プロ  
グラムにより知識の精緻が見られた。特に  
この傾向は小学生で顕著であった。

長崎被爆の事実に対する正答率は小学  
生、中学生、高校生においては知識の精緻  
が見られた。特にこの傾向は小学生で顕  
著であった。

児童生徒が平和について学んだことの  
うち、これまでのプログラムと本プログラム  
とに分類した。少学2-3年生では従来の  
プログラムから「広島市に原爆が投下され  
たこと」「いじめはだめ。いじめられて  
いる人がいれば助けてあげるべき」「平  
和について学習することは大切である」  
ことを学んできたとしている。一方、本  
プログラムでは「みんなでできまりやル  
ールを学ぶこと大切」「世界の人と仲  
良くすることは大切」としていた。

平和構築の重要生については中学生や  
戸口生よりは小学生の方が垂「自分や人、  
生き物の命を稚拙にすることがたいせつ  
だと認知していた。

本プログラムは平和学習の重要性の  
認知は促進するが、平和社会構築への  
貢献意欲を促進させない。

#### (4) 新平和教育プログラムの評価(教師)

全校種平均76.9%、小学校において  
は9割以上の教師が、児童生徒が積極  
的に本プログラムに参加したと評価。また、  
その要因としては思考を深める学習にな  
ったこと、児童生徒の意見交流が見られ  
たこと、学習内容が発達段階に適してい  
たと評価している。

校種平均74.1%の教員はこの平和  
教育プログラムが平和な社会の形成者  
としての知識・能力等を身につけること  
につながったと評価していた。平和に関  
する学習として適した教材であること、  
児童生徒の発達段階に適した学習内容  
であると評価していた。

校種ともに改善の意見が多かった項目  
は「読みもの・資料」「学習内容」「指  
導展開例・発問」である。この3項目は  
互いに関連しており、指導資料による  
書く単元の学習内容が多く、1時間  
での実施が困難であることから資料  
などの精選と指導展開の重点かが  
必要であるとしている。一方「主体  
的に取り組める内要」「ESDの視  
点を意識した内要」については比較  
的改善を要求する意見が多数見られ  
た。このことは沙樹の結果も含め、  
児童生徒が相互に意見交換をすること  
によりさらに児童生徒が自らの思考  
を深めていくことができたといえた。  
各校種の教師が教

材の資料、学習内容、指導案の展開に改善する余地があると評価。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

ト部匡司、山崎茜、石井真治、広島市における新たな平和教育プログラムの効果に関する研究、査読有、広島国際研究、19巻、2013、113-121

〔学会発表〕(計5件)

Yumiko Suzuki , Asuko Morikawa , Miho Nagase , Kyoko Mukugi , Yasutaka Imanaga . Research on the value as important parts of peace education. 15th World conference in Education. 2013, Kaohsiung, Taiwan

Youhei Okibayashi , Shinji Ishii . Research on the children 's attitude about competence to construct for peace society through peace education. 15th World conference in Education. 2013 ,Kaohsiung, Taiwan

山崎茜、沖林洋平、石井真治、鈴木由美子、森川敦子、平和教育が顕在的平和意識に及ぼす影響に関する研究、日本教育心理学会第54回総会、2012、琉球大学

Shinji Ishii , Youhei Okibayashi , Masashi Urabe , Atuko Morikawa , Relations between developmental stage and place Image. The12th European congress of Psychology,2011, Istanbul ,Turkey

Youhei Okibayashi , Masashi Urabe Shinji Ishii , Development of peace image scale. The 12 European congress of Psychology,2011, Istanbul ,Turkey

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

石井 真治 (ISHII, Shinji)  
比治山大学現代文化学部・教授  
研究者番号：60112158

##### (2)研究分担者

鈴木 由美子 (SUZUKI ,Yumiko)  
広島大学・教育学研究科・教授  
研究者番号：40206545

##### (3)連携研究者

沖林 洋平 (OKIBAYASHI, Youhei)  
山口大学・教育学部・准教授  
研究者番号：20403595

##### (4)連携研究者

小杉 考司 (KOSUGI Kouji)  
山口大学・教育学部・准教授  
研究者番号：60452629